

# 防災だより

その61

防災専門官 野田 秀敏

## 台風・大雨災害が毎年発生

季節の変わり目は、梅雨前線や秋雨前線が日本に停滞し大雨を降らせ、7月～10月にかけては台風が多くなり、九州に接近・上陸し大雨・洪水・暴風被害などをもたらします。

特に傾斜の急な山や川が多い日本では、台風や前線の影響による大雨で、土石流や崖崩れ・川の氾濫などが発生しやすく、人の命や貴重な財産が脅かされる自然災害が毎年起き、甚大な被害が発生しています。また、近年は短時間に狭い範囲で非常に激しい雨が頻発し、道路が舗装された都市部では川の急激な増水やはん濫、道路や住宅の浸水といった被害も発生しています。

## 「防災・避難情報」の活用

台風などによる大雨・洪水・暴風などが引き起こすさまざまな被害を防ぐため、市や県は、土砂災害防止のための砂防ダムの整備・崖崩れ防止の

ための防護壁の整備・川のはん濫を防止するための治水工事など、さまざまな防災対策を行っています。こうしたハード面の対策を行っても自然の力(脅威)が勝れば災害は発生します。

災害から「命」を守るには市が行う「公助」の対策だけではなく、私たち一人一人の「自助」、すなわち、日ごろから災害に対する備えをしておき危険を感じたら早めに避難するなど、自らの「命」を守るための防災行動を起こすことがとても重要です。

この「自助」のために役に立つのが、気象庁が早い段階からテレビ・ラジオなどで発表している注意報・警報などの「防災気象情報」であり、市が

発令する警戒レベルのついた「避難情報」です。

市民の皆さんが、早めの防災行動をとれるよう、大雨・台風などに関する防災気象情報と避難に関する情報を有効に活用してください。

## ハザードマップ危険箇所をチェック！

台風や大雨のときは、崖や沢、増水した川など危険な場所には近づかないようにしましょう。

3月に更新した新ハザードマップの御笠川、鷺田川、大佐野川、山の神川の洪水ハザードマップ(計画規模と想定最大規模)を確認しましたか。

河川がはん濫した場合の浸水予想地域、土砂災害が発生

する危険性のある地域などを示しています。

必ず確認して早めの避難準備を行い、危険を回避した経路の選定、避難所の確認などに活用してください。

しかし、過信は禁物、危険地域外の住宅に住んでいても想定以上の豪雨や浸水が、起きる可能性があります。

## 家の内外の対策！

雨が降ったり風が強くなったりする前に、窓や雨戸はしっかりと閉め、必要に応じて補強しましょう。

側溝・排水溝は掃除して水はけをよくし、風で飛ばされそうなものは飛ばさないよう固定するか家の中に入れるなど、家の外の備えもしておきましょう。

雨や風が強くなってきたら外の作業は危険です。窓ガラスに、飛散防止フィルムを貼るなど室内の安全対策も行いましょう。

避難が必要になった時に備え、非常時持出品や備蓄品の点検・準備も忘れずに！

## 【近年の台風・大雨被害】

|                 | 死者数  | 住家被害棟数   |
|-----------------|------|----------|
| 令和3年8月 豪雨       | 13人  | 8,209棟   |
| 令和2年7月 豪雨(T10号) | 84人  | 16,548棟  |
| 令和元年 東日本台風      | 105人 | 105,699棟 |
| 令和元年 房総半島台風     | 9人   | 93,372棟  |
| 平成30年7月 豪雨      | 263人 | 51,110棟  |
| 平成29年7月 九州北部豪雨  | 42人  | 3,864棟   |



## くらしの防災ガイド～台風への備え～

台風の前にやっておくべき備えのチェックリストです。台風の接近が予想される場合は確認しましょう。

### 台風の「備え」チェックリスト

- 物干し竿や植木鉢を家の中へ
- 側溝や排水溝の掃除
- 雨戸やシャッターを下ろす
- スマホやモバイルバッテリーの充電
- 湯船に満タンの水を貯め、飲料水も用意
- ボンベ式コンロや懐中電灯、非常食など非常用品の確認
- 家の近くの避難所がどこか確認、家族とも情報共有

### 非常用持ち出しバックの中身チェックリスト

- 飲料水(3日分)1日分の目安…3L
- 食料品(3日分)常温保存できるもの
- 懐中電灯、携帯ラジオ、携帯電話の充電器
- ヘルメット、マスク、軍手
- 救急用品(消毒液、常備薬、包帯など)
- 衣類、下着、タオル、毛布、雨具
- 洗面用具、ウェットティッシュ、携帯トイレ
- 貴重品(現金、通帳、印鑑、健康保険証など)

